

# まだ遅くない

葉月 一郎

え・小西保文 (題字も)

## 残酷な野獸

公害キャンペーーンを、なぜ中止したの——それが亜紀子の唇からもれた最初のことばだった。

だが、そのことばは、戸波の横を素通りして、夜の闇に消えてゆく。

戸波にとって、どんな科白も、いまは意味がない。そこに亜紀子がいる。そのことだけが彼の意識を独り占めしていた。

「亜紀子さん」

自ら確かめるように呼びかける。

信じられないものが、ここに存在している。それを素手でつかみ、肌でたしかめたい。

次のことはが何一つ出てこない。それが、もどかしい。

亜紀子の腕を、腕でかかえこんだ。

そのまま、自分の部屋に向かう。

かすかに抵抗の姿勢を示したあと、亜紀子は戸波に従つた。

乱雑に積み上げた古新聞。男のひとり住まいにしては、体臭のない部屋である。むしろ、カビくさい、ほこりの

（あらすじ）神戸に君臨する大企業、兵庫製鉄（兵鉄）の公害をなくそうと、毎朝新聞神戸支局の石津支局長がキャンペーーン企画、取材をすめていた。昭和四十五年秋のことだ。仕事への情熱を失い、バーの女ユカとの情事におぼれていた戸波岐記者も、十年のキャリアを貰われて参加する。たまたま醉客にからまれているところを助けてやった兵鉄秘書課の細川亜紀子と親しくなり、亜紀子は会社首脳の新聞社対策などをそのつど戸波に知らせて協力する。ある夜、二人は六甲山のホテルへ泊るが、体は結ばれないまま一夜をともにする。亜紀子の兄も記者だったが誤報事件のワナにかけられて自殺したと告白する。兵鉄の花房総務部長らは二人の関係をかぎつけ、亜紀子を工場勤務へと配置が田次長らは本社へ喚問され、キャンペーーンは掲載直前に中止と決まる。傷心の戸波は、その夜、亜紀子がひそかにアパート暮らしをしていることを知り、疑惑を深める。真相のつかぬまま酒に溺れた戸波の帰宅を待っていたのは亜紀子だった。彼女は「なぜキャンペーーンを中止したの」と激しく問いつめる。



においが漂っている。

奥の六畳のまん中へ、まるで引き据えるように亞紀子をすわらせた。

あけっぱなした襖の影から、隣室の万年床がみえる。

それに、止まつたままの置時計、よごれて積み重ねてある洗濯もの、長い間使つたことのない流し台……。

あかすかに眉をひそめると、亞紀子は部屋の主の「生活」を読みとつた表情になつた。

そんな風情に気づかぬまま、戸波は亞紀子の真正面にすわつた。

じつと、視線を合わせる。

何から話していいのか。いいたいこと、聞いてみたいことは山ほどあるのに、ことばが出てこない。

思えば、しばらく会っていない。あの六甲山頂の霧の夜以来である。

感付いたらしい会社側の対応策で、亞紀子は工場勤務に配置がえになつたという。そのことも電話で聞いただけだ。そして今夜、はじめて知つたアパート暮

らしの事実……。

脳裏を、いくつかの問いがかけめぐつた。

が、それより先に亞紀子の声が届いた。

「ね、どうして、公害記事、やめになつたんですか」

「……」

虚を衝かれて、戸波はうろたえる。

(何と答えたらいのか)

しかし、もう一つの声が肚の底からわき起

こつてくる。

(終つたんだ。そんなことは、もう遠い過去の話。いまさら、誰に説明してみたって、どうしようもないことじやないか)

その声に支えられて、戸波はかろうじて立ち直る。

酔いの残る体に、懸命に鞭をあてながら、相手を見据える。

キチンと正座して、瞳だけをキラキラと輝かせた亞紀子の姿が、そこにあつた。戸波の心の奥をつかみとろうとする鋭い視線――。

圧倒されそうになりながら、戸波はまるで悲鳴のようなことばを口にしていた。

「君は、おれを、だましたね」

それは、この数時間、彼の胸を占領していた疑問であつた。その疑問を肴にしながら、酒を浴び、酒に溺れていたのだ。

しかし、実は、いま最も口にしてはならない質問だつたかもしれない。

果たして亞紀子は、硬い表情になつた。こんなときになにをいうのか、と詰る顔付きである。

が、戸波はそれに気付かない。心にとめる余裕もない。

「なぜ、ひとりで、アパートにいることを、おれに隠した。そんなことぐらい、どうして、話してくれなかつたんや」

にじり寄る。見上げるよう、のぞきこもうとする。

ふと亞紀子の頬が曇

つた。もの悲しそうな影が走った。

どうして、私の問い合わせてくれないの。

どうして、そんなことを尋ねるの。

どうして、二人の間にこんな食い違いができてしまったの。

どうして、どうして……。

かみあわない心にいらだちながら、亜紀子は沈黙という名の砦にこもっている。

露地の坂道のあたりで、夜鳴きそばの、チャルメラの音がした。

その哀感を呼ぶ音に誘われたように、亜紀子が立ち上がる。窓辺へと、歩を運ぶ。

肩透かし、と戸波は受け取つた。ようやく女をつかみ

かけたのに、気がついたら脱け殻のような衣装しか残つていない……。

「亜紀子さん」

声が大きくなつた。

「もうこれ以上、ウソをつくのは、やめてくれ。せめて僕にだけは、本当のこと、しゃべってくれよ」

うしろ姿が、返事を拒否していた。肩から背中へと流れれる長い髪が動きを失い、凍えてみえる。

「君、まさか、兄さんが新聞記者だったこと、誤報事件に巻きこまれて自殺したことまで、ウソやないやろな」



そのことばを吐き終ら

ないうちに、亜紀子が激しく振り向いた。まるで

血がふき出てくるのでは

なかろうか、と思わせる

ような灼けた視線が戸波をとらえた。

「いま、なんておつしゃつたの」

「君を……君を信じられなくなった」

ことばを返すかわりに亜紀子はよろめきながら窓によりかかった。

チャルメラの音が近寄りながら尾を引いている。

亜紀子の口が動いた。

だが、その獨白に似たつぶやきの中身は、耳に届かない。

「え？ なに？」

「え？」

「あんなにまで力を入れて、意気こんでいた仕事を、あたた。それをビシャツと拒否するように、亜紀子が叫んでいた」

「私も、あなたを信じられないって、いったの」

「…………なぜ……」

「まだ、君は、そんなことを……」

「そんなこと？ あなた方にとつて、公害キャンペーンは、その程度のことだったのね。煙をかぶつて暮らして

いる人たちの身になつて、徹底的に公害のひどさを訴える、といつてたのは、どこのどなたなの」

そんなこと、わかつてゐよ。だけど、どうしようもな

いんや——胸の底で、投げやりにつぶやく声がする。メタンガスのあぶくのよう、それは異臭を放ちながら湧き続いている。

だが、心とは別のことばが出た。

「話をスリ替えないでほしいな。おれが聞いているのは、君自身のことやで」

「卑怯よ、戸波さん。スリ替えて、ごまかそうとしてるのは、あなたじやないの」

「ごまかす？ 冗談じやない。君こそ、自分をあいまいにしたままで、ひとのことを……」

悲しい食い違い。せつかくの再会といふのに、話は一向にかみあわない。いや、話せば話すほど、二人の距離は遠ざかってゆく。

心中に、あせりが芽生えた。

（こんなはずじゃなかつたのに……）

キャンペーン中止のいきさつは、ありのままに説明すればいい。亞紀子の生活のことを聞き出すのは後日でもよからう。ようやく一つ屋根の下で向かいあえたのだから、ささくれ立つたお互いの心を暖めあうのが、いま一番必要なのではないか。

だが、歯車はすでに逆方向へと回りはじめていた。と

めようとしても止まらない坂道を——。

亞紀子が、急に放心したような表情になつた。窓辺の壁に寄りかかつたまま、崩折れるように畳にすわりこむ。

「もういいわ。もう聞かない」  
「…………」  
「期待した方が間違いなのよ、ね。あれだけ大きな会社の公害を、住民や一つの新聞の力でなくするなんて、もともとあり得ないことだったのよ」  
「そうだ、その通りなんだ——。戸波は、からつほの頭で、うめいていた。ザラザラのけだるい無力感だけが、全身を覆つてくる……」

「私たちも、おしまいね」

ポツンと、石ころでも放り出すようによく亞紀子がいった。新聞が、どれほど頼りにならないか、よくわかつたわ。……それに、あなたも、これで私の利用価値がなくなつたんでしよう。もう、必要ないわよ、ね

畳に片手をついて、うつむき加減に、ひとりごとのようによく動いている——。

利用価値。思えば、それが結びつきの導火線だったような気がする。

近づいておけば、仕事に何かプラスがあるだろ。そんな計算が働いたのは事実である。

だが、いまの、少なくとも、きょう夕方までの心のたかまりは、決して利用することだけの関係ではないことを証明している。だから「もう必要ないでしよう」といってのけた亞紀子のことばは、ひどく戸波を刺した。

「違う。そんなこと、ないよ」

噴き出すように、叫ぶ。

「少なくともおれは、そうじやない」

しかし、亞紀子は、ゆっくりと立ち上がりつて立った。戸

波の叫びが耳に届かなかつたのか、表情も変えずに、のろのろとハンドバッグを拾つた。

「さ、よ、な、ら」

古新聞の山と、乱雑に散らかつた灰皿や本の間を縫う

ようにして、亞紀子がゆっくりとドアに向かう。

ひどく頼りなげな足どり。チャルメラの笛が、それに合わせるように心細いメロディを奏でる……。

戸波の体内の血が、一気に逆流した。

（待つてくれ！）

叫んだつもりなのに、声にならない。

ふらつく足が、灰皿を蹴り、本につまづきながら亞紀子を追う。

失つてはならない。いま亞紀子を帰らせてしまえば、もう永遠に戻つてくれないような気がする。

暗い、長いトンネルに迷いこんだいま、それは残つた

一本のろうそくが消えてしまうことと同じではないか。

その想いが、男を逆上させた。

追いすがる。腕をつかむ。引きもどす。

亜紀子が、それを振り払った。予想を遥かに超えた激しさである。

はすみで、ドアの脇に積み上げた古新聞の束につまづきよろけた。ぶざまに転んだ。

そのままに飛び出そうとする亜紀子の足を、転んだま必死につかむ。

折り重なるように、亜紀子の上体が落ちてきた。

「放して！ エゴイスト！」

「行くな。行かんしてくれ」

「きらい。新聞記者なんて、みんな、きらいよ」

「な、なにを！」

もみあい、喚きあう。

ブラウスの裂ける音がした。

激しく抵抗する亜紀子の動きが、逆に男を刺激したのだ。

心に暖めつづけてきた亜紀子とのめぐりあいの、思わざる結末——。その悲しさ、口惜しさ、暗さが一気にのしかかってくる。

自暴自棄に似た感情の渦の中で、戸波の男は野獸と化していた。

(新聞記者なんか、きらい) 短かい叫びが、胸の底に突き刺さったまま心をえぐる。

記者がなんだというのだ、おれは、ただの男に過ぎぬ。

亜紀子だって、いまはもう、ただの女ではないか。兵庫製鉄に勤めていようといまいと、おれにとつては全く関係のない話さ。

理性も職業意識も消えていた。そこにいるのは、一匹の裸のけだものであつた。

腕に力がこもる。組み伏せる。

バネ仕掛けの人形のようにならぬのが、男をはねのけた。が、男は屈せずに飛びかかる。

女の足が、今度は宙を蹴った。むき出しになつたふくらはぎの白さが、男の欲情を一層あおつたようである。

女の両手首をつかむ。

そのまま、部屋の中央へ引きずつてゆく。

食卓の足が折れた。灰皿が転がつた。

無言のまま、荒らい息づかいだけが室内に交錯する。

亜紀子の瞳に、悲しみのいろが宿る。

戸波の瞳には、燃しかない。燃えて、ただれて、憎しみのいろさえはじめた焰である。

それでもなお、亜紀子はさからつた。腕をつっぱり、

その頬に、戸波の平手打ちが飛ぶ。二度、三度、四度……。顔をそむけ、体をよじつた。

むしりとるよう、ブラウスをはがす。

なんということだろう。

亜紀子の脳裏に、あの六甲山頂のホテルで過ごした一夜がよみがえる。

二人の心が急速に歩み寄り、体もほとんど結ばれんばかりに重なつたあの夜。お互いに相手をたて、かばい、いとおしんだ甘酸っぱい夜は、つい先日のことだというのに……。

亜紀子の白い頬に、つづりと涙が走つた。あとから、

あとからと続いた。

埃っぽい畳に、長い髪が舞いおちる。むき出しの白い肩が、その上に崩折れて……。

抵抗をやめた女を、戸波の体が覆つた。それは、猛々しい息づかいで餌食に襲いかかる野獸にも似ていた。ものはや意志のない肉片なのに、けだものはそれをむさぼりつづけていく……。

無惨な幕切れだった。残酷なエピローグのひとこまともいえた。

螢光灯のあかりにさらされて、亜紀子の頬が苦痛に歪んでいた。涙のあとにまた涙が走つた。

チャラチャラの音が、すぐ足元から聞こえた。悲鳴のよう、長く尾をひいて流れた。(つづく)



小小楠貝鴨柏嘉嘉金小小岡牛榎石石乾砂青朝安  
曾比  
泉林磯本原居井納納井野根崎尾並野野野木奈部  
徳芳良憲六健毅正元一真吉正成信豊重正  
一夫平吉一玲一六治彦夫造忠朗一明一彦仁雄隆夫

津高陳田玉田田滝滝竹角砂塩新白佐雀坂古後上小  
高橋 辺井中宮川中南田路谷川藤部井林藤林林  
和 舜聖 健虎勝清 猛重義秀 昌時喜末英秀  
一  
一孟臣子操郎彦二一都夫民孝雄渥廉介忠楽二一雄  
之

神行元百村光宮宮松福深畠野南難中中西西直外竹  
戸青吉永崎上田地崎井富水 澤部波西卷脇村木島馬  
年会哉定辰正顕襄辰高芳惣幸圭 太健準  
議所女正雄郎司二雄男美吉郎郎三還勝弘親功郎吉助

日東館 漢口堂三宮店 文堂書店 丸大町 京元町通3丁目筋  
宝文館 通3丁目筋 漢口堂書店 新開地本通  
隆司書房 漢口堂書店 長田区宿場町  
神戸書林 神戸書林 長田区宿場町  
神戸書林 宿舎バス停前  
★月刊神戸っ子に広告を掲載し希望の方は編集室へお申込み下さい。  
★神戸百貨店の事務局は月刊神戸っ子編集室内にあります。

★発行にいろいろお世話いただいた方がた

→ 東京で例えると、新宿がどんどん変化してしまう街だと、神戸の街などは、まさにその手を行っているんじゃない。だからと思う。」小生、十余年余りの在  
阪時代はさして、新宿の街など興味もなく只々友達と共に桜子酒や宮中通りの人の混みをかきわけ歩き回った記憶しか残っていないせんだけ  
が、去年の神戸まつりを偶然立ち寄り見て、神戸の神戸通りの速さとハイタ  
リティに驚かされました。東京がやることなすこと、結構理解できたり気味が  
他の抱負は端でみていても頗る厳しい。今後は、神戸の神戸のこうした  
发展ぶりは、神戸「手」を通して注目したい。  
発展ぶりは、神戸「手」を通じて注目したい。  
（東京・秋元晋一）  
★まず最初は「神戸」つ子75」を、誰  
か知っている人が出ないか楽しみ

★私はついこの間東京の本社貴賓室で神戸支店に参りました。偶々貴賓室を拝覗する機会を得、楽しく談んでいました。東京の銀座百貨店でもちょっとした小冊子（銀座百貨店）と同じような冊子で、『神戸フーズ』は優るとしており、『神戸フーズ』の意気をあかしていって心強く感じました。でもなぜ「俳句」の欄を作つてください。句愛好者のためにも。

★第5回。前夜祭の各地には、見事に、五月晴れのパレードや各店場もの、嬉しい人出で祭りに参加し、楽しんだ。年々活気溌々と伸び、やはり健康な市民の精神の祭りなのだ。サー・キット一族の歩走などにイジケないで、来年はもっとと知恵を集めた世界にはこる祭りへと前進させたいものだ。(小川康夫)

★七五が皮をぬいで新しく羽根のように、身も心もスカッとする。オフショア・ヨット・シティの国籍不分明祭り。人はいうが、隣居神戸っ子の無国籍者ヨヨリこそ、地元人間らしくて氣分がいい。混血神戸のエネルギーだ。(泉美喜美子)

★神戸まつりの記事は、7月号でご紹介。おたのしみに……。

★窓口ごとに五月晴れの空を見てはいるけれど、外へ出たくなりません。私たるもの仕事は、出で出ることが多くあります。半袖の白いシャツがすがすがしい季節が今年もやってきました。（中村雅子）

★矢崎泰久氏の神戸情報が一年間の連載で今月終了。矢崎氏と小西保文氏は感謝。ところで、初夏の風が感じられます。しかし夜がいやがに冷たいのだろう。ありがとうございます。（かはさき）

★新しい「神戸っ子」のスタッフ、「大人と子供のあいのこ」と自称しておられます。（HIRO）

後編  
記集



★神戸港特集の原稿を整理しながら事務所の窓から夜景を見るにつけ、ここが港を見下すホテルの一室で

# 神戸のうまいもんとドリンク

## ★日本料理

讃岐名代うどん あこや亭  
神戸市葺合区旗塚通7-5 TEL 231-6300  
トアロード店 TEL 391-2538  
兵庫駅前店 TEL 575-5306

和食 くれなゐ  
三宮生田新道浜側中央  
KCBビル2F TEL 331-0494

かつばう 花くま  
神戸市生田区花陽町45  
TEL 341-0240

鍋もの・おもすび 悟味西  
お茶漬・かはん  
神戸市生田区北長狭通1の20 TEL 331-3848  
三宮さんちかタウン TEL 391-5319

お茶直・おもすび  
鍋もの ふるい里  
神戸市生田区北長狭通2の1  
TEL 331-5535

たこ焼 たちばな  
三宮センター街(旧柳筋) TEL 331-0572

北海道郷土料理 蝦夷  
神戸市生田区中山手通1丁目115  
生田区東門筋東門会館ビル1階  
TEL 331-7770

カニ料理 婆娑羅(ばさら)  
神戸市生田区北長狭通1丁目18  
三宮阪急西口北側 インボーブラザ1・2F  
TEL 321-6363

天プラハウス 美術喫茶 瀬戸  
神戸市生田区山本通3丁目27の9  
瀬戸ビル1F TEL 221-6548

## ★西洋料理

レストラン アボロン  
神戸市葺合区八幡通5丁目6  
TEL 251-3231

レストラン 皮(あらかわ)  
神戸市生田区中山手2-9  
TEL 221-8547・231-3315

GALLERY & STEAK HOUSE SAN-MON 三門  
神戸市生田区中山手通1丁目98/99  
TEL 331-5817

ステーキハウス れんが亭  
神戸市生田区下山手通2丁目34  
TEL 331-7168

レストラン セントジョージ  
神戸市生田区北野町1丁目130  
TEL 242-1234

## レストラン

男爵  
神戸市生田区中山手1-18  
山手第一ビル1F TEL 241-0778

花屋敷  
三宮フラワーロード市役所前  
TEL 251-2109

きやんどる  
神戸市生田区北長狭通2-22  
TEL 331-1183

レストラン キングスアームス  
神戸市葺合区磯波通4-61  
TEL 221-3774

居酒屋風  
れすとらん 井戸のある家  
生田新道新紀元  
TEL 331-5664

レストラン ムーンライト  
三宮・生田新道  
TEL 331-9554

串かつ店 和蘭陀屋  
三宮相互タクシー北入  
TEL 321-0230

クリル・鉄板焼 月  
神戸市生田区北長狭通1-24  
生田神社前 TEL 331-2509

BARBECUE & STEAK 六段  
生田(元町通3丁目)  
TEL 331-2108

レストラン スイスシャレー  
神戸市生田区北野町3丁目48アニルドマンション1F  
TEL 221-4343

レストラン ハイウェイ  
神戸市生田区下山手2-20  
TEL 331-7622

ピッツアハウス ピノッキオ  
神戸市生田区中山手2-101  
TEL 331-3545

レストラン フック東店  
神戸市生田区采町1-5-3  
TEL 321-3207

ピザ&スパゲティ ガルの店  
葺合区琴繕町5丁目1-7  
西山ビル1F TEL 241-9025

ステーキハウス グリル青山  
神戸市生田区中山手通2丁目112-2  
(トアロード)  
TEL 391-4858

## ピザ・パブ

ピザ・パテオ  
神戸市生田区元町通1丁目49(元町1番街)  
TEL 331-9378

## フォーラウエスタン

ローストシティ  
神戸市生田区三宮町3丁目22  
TEL 331-3770

## RESTAURANT & BAR

ゴックスタッド  
生田区山本通3丁目18 回教寺院前  
TEL 242-0131

## メキシコ小料理亭

ティファーナ  
神戸市生田区中山手通1丁目4ノ12 パールコーポラスビル1F  
TEL 242-0043

## ドライブ風

コーベ・ローライ  
生田区北長狭通6丁目39  
TEL 371-0086

## ★喫茶

## 宮水の

にしむら珈琲店  
中山手店・神戸市生田区中山手通1丁目70  
TEL 221-1872・231-9524

## センターストア

北野店・山本通2丁目9 TEL 242-2467  
(会員制) 3F 事務所 TEL 242-1880

## 喫茶・レストラン

バローナ  
神戸三宮サンプラザ地下 TEL 391-1758  
トアロード店 TEL 391-1210

## 喫茶

ガーデニア  
神戸市生田区東町113-1 大神ビル1F  
TEL 321-5114

## 珈琲

モーツアルト  
神戸市生田区山本通2丁目98グランドマンション1F  
TEL 241-3961

## ティ&スナック

サボテン  
神戸市生田区中山手通2丁目(元子短大前) TEL 241-7060

## club

## クラブ

千鳥  
神戸市生田区下山手通リ2丁目21  
TEL 391-1077

## club

飛鳥  
神戸市生田区中山手1丁目117  
TEL 331-7627

## club

小万  
神戸市生田区東門筋中島ビル3F  
TEL 391-0638・4386

## club

さち  
神戸市生田区中山手通2丁目75  
TEL 331-7120

## club

なぎさ  
神戸市生田区北長狭通2の1 TEL 331-8626

## club

蕗(ふ)  
神戸市生田区下山手通2丁目 TEL 391-1515

## club

ぶーげん  
三宮生田新道浜側中央KCBビル5F  
TEL 331-8593

## club

Moon Light  
BAR TEL 331-0886-391-2696  
Club TEL 331-0157

## club

るふらん  
神戸市生田区北長狭通1丁目53 TEL 331-2854

## ★STAND & SNACK

ドリンク & レストラン  
神戸市生田区中山手通2丁目101 大洋ビル2F  
TEL 321-5677

## スタンド

英國屋  
生田区下山手通2-6 相互タクシー横  
TEL 331-1100-331-6600

## 洋酒ハウス

雜貨屋  
生田区下山手通2丁目8の6  
(生田新道相互タクシー横上る) TEL 321-0260

## スタンド

グラムール  
生田筋岸ビル地階 TEL 331-4637

## SNACK

MATSUMOTO  
神戸市生田区中山手通1丁目32-3  
曾根ビル1F TEL 241-5470

## カクテルラウンジ

サヴォイ  
高架山側 テキの店北  
TEL 331-2615

## DRINKING IS AN ART OF LIFE

ウッドハウス  
神戸市生田区下山手通1丁目32  
PHONE 078-241-7320

## スナック

ビジービー  
神戸市生田区中山手2丁目 TEL 391-4582

## 居酒屋

ボルドー  
生田新道浜側中央KCBビルB1F  
TEL 331-3575

## Wine and something

珍地理屋  
神戸市生田区中山手通1丁目24-7  
大和ナイトプラザ1F TEL 242-0288

## サンド

神戸時代  
生田区中山手通1丁目28  
シャトウコトブキビル TEL 242-3567

## スタンド

キヤンティ  
神戸市生田区北長狭通2丁目3  
TEL 391-3060-391-3010

## 洋酒の店

キャンティ北店  
神戸市生田区下山手通3丁目8-9 TEL 331-3661

## DRINK SNACK

スネカリツ子  
神戸市生田区下山手通2丁目  
水永ビルB1 TEL 391-8708

## Stand&Snack

サントノーレ  
生田区下山手通2丁目トア・ロード  
TEL 391-3822

## Salon de roulette

サントノーレ  
神戸市生田区中山手通1丁目24-7  
ダイワナイトプラザ6F TEL 241-1710-221-3886

## スナック

スナック  
神戸市生田区北長狭通1丁目258  
TEL 331-6778

## STAND

マシュケナダ  
生田区下山手通2丁目ちやいなタウン地下  
TEL 331-5587

## スナック

GASTRO  
神戸市生田区中山手通3-20  
トアマンション TEL 231-0723

## バスチャーリントン

生田区北長狭通2丁目(トアロード)  
TEL 332-1125

## 比奈古多

スナック  
とうふ料理  
神戸市生田区北野町1丁目143  
TEL 241-1306

## サロンアルバトロス

生田区中山手通り1丁目24の7  
大和ナイトプラザ2F-B TEL (231)3300

## スナック

エルソタノ  
神戸市生田区下山手通 TEL 331-6620

## スナック

山莊  
神戸市生田区北長狭通1丁目22  
TEL 391-5823

## スナック

紋  
神戸市生田区北長狭通1丁目41-1 レンガ筋  
TEL 331-8858

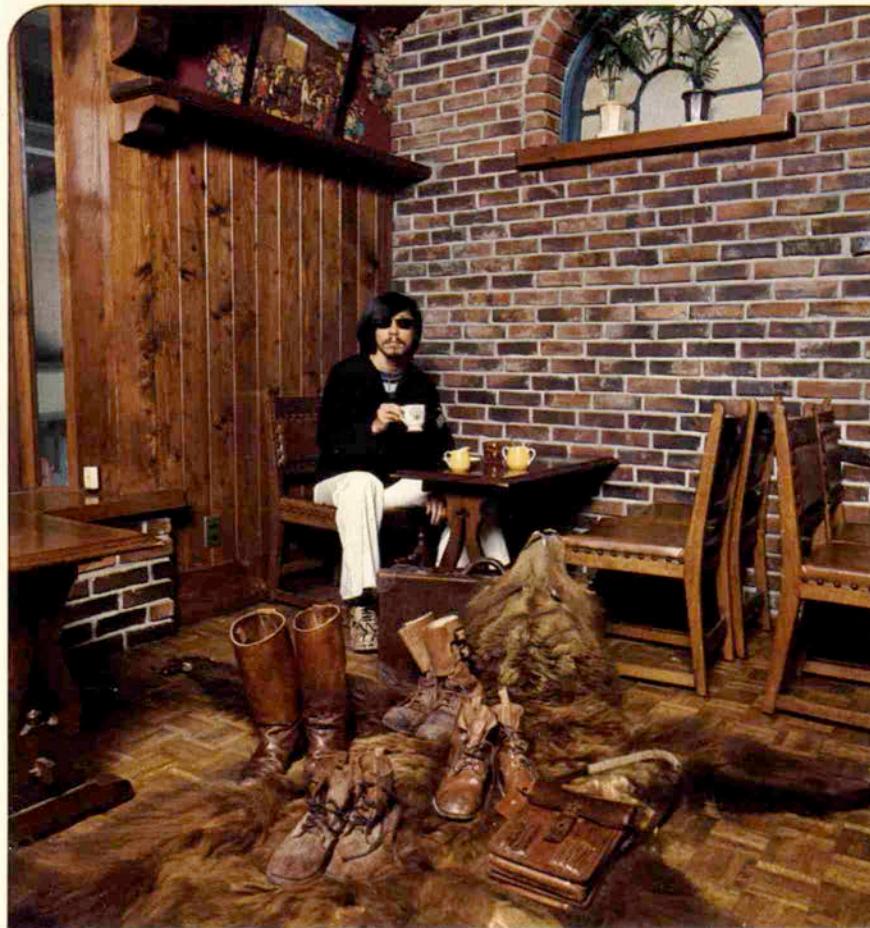
## スナック

興志務樂亭  
神戸市生田区山本通2丁目60パールライフB1  
TEL 242-1977



★KOBE PLAY GUIDE MAP

# 神戸のうまいもん



# bal' on antique series

## XXIX 皮

白井 亜紀  
<インフォーメーション  
ディレクター>

「少年の頃から、古い物に興味を持ち、現在のようなアンティックを集め始めてから10年以上になる。部屋中、骨董品だらけでカップやフライパン、ストーブに至るまで古物ばかり。

皮製品には、特に魅力を感じている。皮靴やブーツは、昭和10年代に作られたもので、今も神戸の街をこの靴で歩く。熊の毛皮には、懐しいエピソードがあるのだが……。

この店のインテリアには、なめらかな皮がよく似合う。静かにコーヒーを楽しみたいものだ。」

トア・ロード バロンにて  
カメラ／藤原保之



# バロン

★英国風喫茶・レストラン 三宮さんプラザ店  
TEL 391-1758 AM11:00~PM 9:00迄

★コーヒーショップ トア・ロード店  
TEL 391-1210 AM10:00~PM 9:00迄

★コーヒーショップ センター街店  
TEL 391-1375 AM10:00~PM 9:00迄





# Night in Kobe

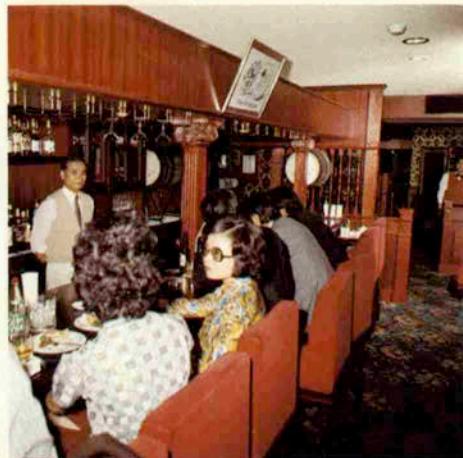


英国の香り

## BASS CHARRINGTON

トアロード高架上ル東側 ☎ 332-1125

日本で初めて樽入りスコッチ（モルト）が飲める店、それがバブ「バスチャーリントン」です。英国の伝統を受け継いだ落着いたインテリアと国内最高のスマートな好青年、お店もその人柄をあらわすように優雅な格調ある落着いた雰囲気が店名の書とともに私の自慢の一つ。日本中いや世界中の私の知人が神戸を訪れる必ず立寄る店です」（望月美佐）



ラ  
ジ  
オ  
ニ  
ク

三宮・農業会館前  
391-8894  
神戸ビル  
F



「絵と書を楽しむマスターの正美君は現代のスマートな好青年、お店もその人柄をあらわすように優雅な格調ある落着いた雰囲気が店名の書とともに私の自慢の一つ。日本中いや世界中の私の知人が神戸を訪れる必ず立寄る店です」（望月美佐）



ク  
ラ  
ブ

よ  
さ  
の

三宮・生田神社前ゼウスビル  
391-5838  
8706  
F

港コウベならではの豪奢なクラブ「よさの」。ロマンと優雅さと、そして、ピアノトリオとエレクトーンのステキな演奏が夜をひとときわ華麗に彩ります。

姉妹店／クラブ「なぎさ」 ☎ 331-8626、321-1210  
GRILL & BAR 「なぎさ」 ☎ 331-3670

初夏のひとときを新装なつたスナックちくせんでおすごし下さい



# スナック ちくせん

神戸市生田区下山手通1丁目85(東門筋)中島ビル4F

☎ 331-3131

近藤正実・岩本文夫





スナック &  
ドリンク

# 姫

生田区中山手通1丁目18

☎ 221-1950



DRINKING IS AN ART OF LIFE 生田区中山手通1丁目32

# WOODHOUSE

山内ビル

☎ 241-7320

## KOBE DRINKING GUIDE

牛山崎

生田区中山手通1丁目

前川ビル1F

ステーキルウス ☎ 391-3335



*Snack joyful*

生田区中山手通1丁目74

三角ビル地下1階

☎ 332-1866



★いよいよ本格的な夏の到来です。仕事が終ってもまだ空には青味が残り、何となく手持ちぶきたな気分、時間がポッカリと空いたような気のする季節となりました。そんなとき、スナック“姫”へいらっしゃいませんか。ちっちゃな店ですが、上品なムードと、ママをはじめ美人が揃っているのが何よりの魅力です。今年は神戸まつりにも初参加、サンサンと降りそそぐ夏の太陽の下、大いに頑張りました。多勢の人と知り合えるまつりの場のよう、ここスナック“姫”は色々な人が親しくなれるような、そんなお店に！”ないと頑張っているのです。

☆ボトル（オールド）¥6,500 ボトル（ホワイトホース、カティーサーク）¥8,000 水割（オールド）¥500 ビール¥400

6:00P.M. ~ 9:00A.M. 日曜祭日休み



★このほどステーキハウス“山崎”でパーティーを開いた神戸労災病院の一行。そのなかの内科医豊川先生に推せんの言葉をいただきました。

「財布は軽いが、豪華な雰囲気でスタミナのある夕食をと思っておられる方、是非一度 stake-house Yamasaki のドアを knock してみて下さい。二人だけの夕食に、グループでのパーティーに、また、家族揃っての夕食にと予算に合わせて色々なコースを工夫してくれます。何よりのご馳走はゆきとどいたサービスではないでしょうか？」

☆最上級神戸牛ステーキ￥5,000 サーロインステーキ￥3,000 テンダーロインステーキ￥3,000 車海老のバター焼き、アワビのバター焼き、ビール￥300 ポトル（オールド）￥5,000 ポトル（ホワイトホース）、ポトル（カティサーク）各￥7,000

5:00 P.M. ~ 2:00 A.M. 日曜日休業

★初夏の風さわやかな6月の空。楽しかった神戸まつりも終わり、これから本格的な夏のシーズン。待ってましたと!! ところで、あなただけに耳よりな話を……。意外に知られていない“ウッドハウス”量のサービスランチ。11時半から1時まで、それはそれはボリュームたっぷり。その日によって変わるもの野菜サラダとポテトサラダとスープ、それにライスまでついて値段がたったの300円。数に制限ありますのでお早い目に。

おめざめのコーヒーは“ウッドハウス”で……。朝8時よりやっておられます。

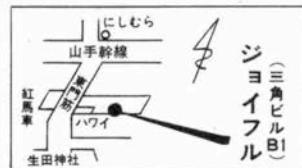
☆営業時間が変わりました。平日／午前8時→午前4時30分、日曜／午後6時→午前12時、年中無休

コーヒー￥150 紅茶￥150 ピラフ￥250 サービスランチ￥300 ピール(小)￥300 本割り(オールド)￥400 フィズ￥500 おつまみ￥100

ウッドハウス

KOBE  
DRINKING  
GUIDE

ヤマサキ



"Have a JOYFUL time!"

愉快な時を過ごしませんか？ 可愛いお店で可愛いママがお待ちしております。このお店はすべて小さくまとめてあります。なぜかおわかりでしょうか？ このママ札子さん自身にお逢いになった時、きっと納得できることでしょ。この店のモットーをお聞きしましたところ、「可愛いいらしさ、そして、貞淑さ」いや驚き！ 現代女性に一番欠けているものとは、この二つと思いませんか。また落着いたインテリアは、きっと誰もが心やすまることでしょ。ヤングカップル、女性同士、恋にやつれたブレーポーイ、ブレーガール、おでこの広いおじさん、そして、ヤングからミドルエイジまで皆さん気がるに来てはジョイフルを可愛いがっておりま。そして御客同士、愉快に話し合ってはいつしか友達になつております。何か欠けているこのごろジョイフルをたすねてみましょう。可愛い店です。見落さないように！「ハーバジョイフルタイム」☆ボトルキープ／リザーブ、カティーサーク、ホワイトホース、各¥8,000 水割(リザーブ)¥700 ビール¥400 6：00P.M.～1：00A.M. 日曜休み